

産学官連携によるクラウド環境を活用した橋梁管理システム

公益社団法人 宮城県建設センター
東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター

東北インフラ・マネジメント・プラットフォームの構築と展開

産学官が連携し、東北地方として維持管理体制を強化。情報基盤としてシステム開発の成果を活用。

直営点検を支援する橋梁管理システム

実現できること

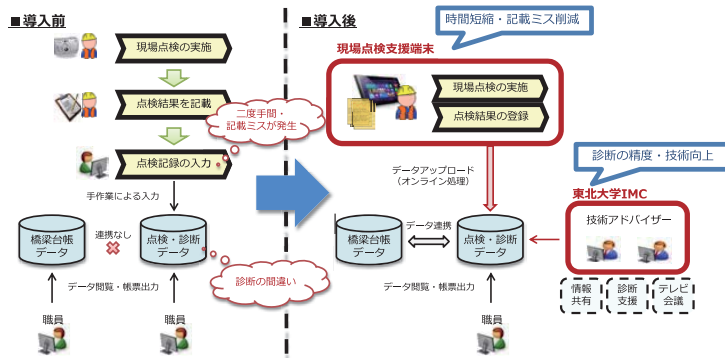
- データを迅速、的確に抽出可能
- データベースと、タブレットなどICT技術との連携
- 蓄積したデータの集計・分析
- 東北大学・建設技術センター・県と市町村がつながる

導入効果

- 点検・診断の高度化・効率化
- 補修計画・予算管理の適正化
- 市町村支援体制の充実化

橋梁管理システムの特長

現場点検支援端末(タブレット)を使って点検結果を登録し、時間短縮と記載ミス削減を実現。システム上で技術アドバイザーが診断結果を確認することで、診断の精度と技術の向上を実現。



前回点検と同じアングルで損傷写真を記録

前回点検と同じアングルの写真を撮影する事で、損傷の進行状況が把握可能。損傷個所の経年変化をデータベースで管理。診断や分析に活用。

■橋梁点検のポイント

時系列データの集積

時系列データの比較により、損傷の進行性、点検間隔、今後の点検での留意事項等がわかる。



2005年 ← 5年 → 2010年

